

ATHENA LIBRARY OF ENGLISH STUDIES

【イギリス研究基本文献シリーズ】

Part 6, Volumes 21–23: Social Life, Fifth Series

ISBN 978-4-86340-021-4 • 全3巻セット定価(本体52,000円+税)

大都市ロンドンの社会生活の一端を示す、
公衆の娯楽をテーマとした研究書を復刻。



← 近代ロンドンの娯楽 →

Volumes 21–22: William Biggs Boulton *The Amusements of Old London: Being a Survey of the Sports and Pastimes, Tea Gardens and Parks, Playhouses and Other Diversions of the People of London from the Seventeenth to the Beginning of the Nineteenth Century* (1901)

ISBN 978-4-86340-022-1 • 564 pp., 12 col. pl.
全2巻セット定価(本体32,000円+税)

17世紀から19世紀初頭までのロンドンの人たちの娯楽について、同時代の手記や手紙、雑誌などを基にして書かれた概説書。社会史資料として定評があり、現在でも幅広く用いられている大著。賭博、仮面舞踏会をはじめとする室内での娯楽から、定期市やボートレースなど屋外での様々な催しに至るまで幅広く取り上げている。

The Diversions of Hockley in the Hole, and at Figg's • London *al fresco*: The Tea Gardens • The Masked Assembly • The Play Tables • The Cockpit • The Play and the Opera • London *al fresco*: Vauxhall • The Fairs • The Prize-Ring • The Parks • The Clubs and Coffee-Houses • Of Sundry Diversions

Topics discussed include: bear and bull baiting; women boxers and sword-fighters; spread of open-air entertainments under the Georges; masquerades; fashionable craze for gambling; introduction of whist and faro; hazard among the lower classes; cock-fights; first appearance of women actors; in the ladies' dressing-rooms; Beau Brummell at the opera; social control of admittance to the opera; libertines at Vauxhall; the *Spectator's* visit to Vauxhall; Vauxhall gardens taken over by Jonathan Tyers; Hogarth as a benefactor of Vauxhall; fireworks introduced; growth of St. Bartholomew's Fair; "Lady Holland's Mob"; Southwark Fair; Mayfair and its attractions; earliest record of boxing in England; virtues claimed for pugilism by the prize-ring; opening of an academy for

teaching boxing; instances of "bought" boxing fights; The Pugilistic Society; strife between the "fancy" and the police; deaths in the boxing ring; the game of Pall Mall; the Mall promenade and some of its characters; the Mall deserted by fashion for the Green Park; puppet shows; waxworks; pantomime; public bathing in the Thames; the privilege of free speech on the Thames; water entertainments and regattas; public executions; etc

Volume 23: Edwin Beresford Chancellor *The Pleasure Haunts of London during Four Centuries* (1925)

ISBN 978-4-86340-023-8 • 476 pp., 17 pl.
定価(本体20,000円+税)

16世紀以降の劇場、公園、庭園等で催されたロンドンの娯楽を解説。著者 Chancellor はロンドン史家としてよく知られる人物。ヴィクトリア朝において典型的な、娯楽の要素と教育的要素が合わさった催し—パノラマやジオラマの展示や各種博覧会—をはじめ、19世紀の公衆娯楽の状況までを扱っている。残酷な見世物についても注意が払われており、動物いじめなどにとどまらず、特に上流社会層が好んだとされる「公開処刑」やスラム街見物まで記されており、社会文化研究資料としても注目すべき好著。

The Earliest Theatres • The Earliest Bankside Theatres • Some Seventeenth-Century Theatres • Drury Lane, Covent Garden, and the Haymarket • Lesser Theatres of the Past • Bear- and Bull-Baiting, and Other Pastimes • The Stews, Gambling Hells, etc. • Paris Garden, Spring Gardens, and Vauxhall • Ranelagh, the Pantheon, and Mrs. Cornelys' s Assemblies • Dioramas, Panoramas, and Other "Shows" • Almacks • London Fairs • Pleasure Gardens: Marylebone Gardens, etc. • Spas and Pleasure Gardens • The Opera, and Other Musical Haunts, etc. • Exhibitions, Zoological Gardens, etc. • Index

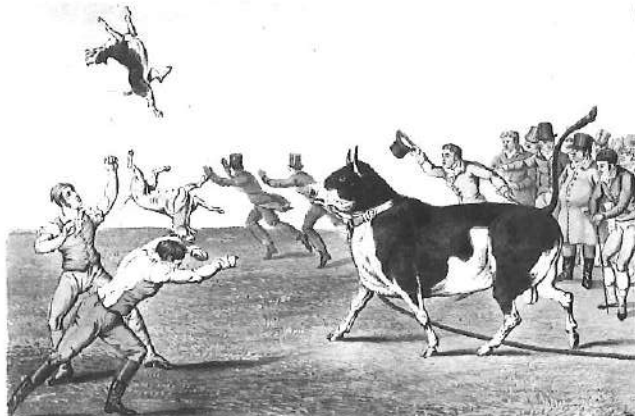
近代ロンドンの娯楽を活写する。

小林 章夫 上智大学教授

たとえば、18世紀のロンドンでは人々は娯楽としてどのようなものを楽しんでいたのか。あるいは休みのときに出かける遊び場としては、どのような場所が代表的だったのか。こんなことを調べるには、もちろん同時代の雑誌や新聞記事、あるいは自伝や回想録、書簡、さらには小説などいい材料を提供してくれるだろうが、いかんせん数が多すぎるから大変である。しかも娯楽と一口に言っても、人々の生活が豊かになっていく時代だから、その種類は多岐にわたる。おまけに、今日なら娯楽と言えないようなものも、18世紀には人々が楽しんでいたのである。その代表が「公開処刑」。つまり、犯罪者の処刑を見せ物として、これに老若男女、貴賤を問わず、大勢の人間が集まって大騒ぎをしたのである。建前としては犯罪抑止になるという考え方があったにしても、内実はみな怖いもの見たさにやってきたのだ。

こうしたさまざまな娯楽、遊び場などの世界を資料に基づいて活写し、娯楽の歴史のみならず、社会史の一面を詳細に跡づけてくれる書物が、今回復刻されたものである。昔、コーヒー・ハウスの歴史やパブの模様、あるいはロンドンの風俗などを描いた書物を著したとき、ここに復刻された書物には大いにお世話になった。そして今でも手元に置いて、小説や詩を読んでいて状況がつかみにくいときなどは、拾い読みすることもある。

William Boultonの*The Amusements of Old London*は、17世紀から19世紀初頭までのロンドンの娯楽を詳しく跡づけた大著であ



る。2巻本の中にコーヒー・ハウスやクラブ、ティー・ガーデンなどの模様が詳細に描かれていて、通読はもちろんのこと、何かわからないことがあるときには、事典として使うことも多かった。公園の様子もよくわかるし、夏目漱石が言う「社会全体が一大娯楽場」だった18世紀の、賭博の詳細が描かれていて、これもまた興味深かった。もちろん劇場世界やオペラの様子も、この書物はきちんと伝えてくれる。

一方、E. B. Chancellorの*The Pleasure Haunts of London during Four Centuries*もこれに劣らない宝庫である。タイトルからわかるように、こちらはさらに時代をさかのぼって、16世紀から19世紀に至るロンドンの遊び場を詳細に跡づけた書物。初期の劇場の模様、人々が狂奔した「熊いじめ」や「雄牛いじめ」といった血なまぐさい娯楽(何しろ、熊や雄牛を柵につないで、これに次々と犬をけしつけて喧嘩させるのである)の姿などが、この書物を通じて甦ってくる。昔のイギリス人はかなり乱暴な国民だったのである。

というわけで、ロンドンの歴史の一齣を知るには貴重な書物だから、その後の社会史家たちは、しばしばこれらの書物を材料として使ってきた。たとえば、1巻本のロンドン百科事典として非常に便利なBen WeinrebとChristopher Hibbertの二人が編纂した*The London Encyclopaedia*もこれらを大いに利用している。

ところがこれほど貴重な書物でありながら、BoultonもChancellorもオクスフォード版の『イギリス伝記辞典』(ODNB)には、まったく取り上げられていない。この2冊が復刻されるのを契機に、二人への注目が高まるならば、これに勝る喜びはない。

【発行】

Athena Press

株式会社 アティナー・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】